

歩くトラバサミ「アギトアリ」



文と写真◎砂村 栄力 Sunamura Eiriki

森林昆虫研究領域

大あごを180度開いたアギトアリ
あごの付け根付近から生えている
長い毛がセンサーになっている。

アギトアリは森林にすむ、体長1センチを超える日本最大級のアリで、クワガタのようなハサミ(大あご)を持っています。「アギト」とは「アゴ」という意味です。もともと鹿児島県以南に分布していましたが、ここ10年ほどの間に大阪や三重、静岡、神奈川、東京といった本州の森林内で相次いで見つかっています。

基本的に夜行性で、日が沈んだ頃から巢穴の外に出できます。大あごを広げて歩き回り、大あごのつけ根付近に生えているセンサー(感覚毛)に獲物が触れると、反射的に大あごが閉じるようになっていきます。これで小さな昆虫やヤスデを捕らえます。大あごで捕らえた獲物を、腹部末端の毒針で刺して動けなくすることもできます。また、大きな獲物は仲間と協力して狩りをします。小動物の死骸をあさったり、木の実を拾ったりして餌にすることもあります。

歩くトラバサミのようなアギトアリですが、大きくて目立つので徘徊性のクモに襲われやすく、造網性のクモの巣に引っかかるものもよくいます。また、大あごは小回りが利かないため、小さなアリに集団で襲われると反撃できずにやられてしまいます。

巣は、石や倒木の下、土の中にあります。一般にアリは1年の決まった時期に羽アリ(新女王とオス)が巣から飛び立って交尾し、羽を落とした新女王が新しい巣を作ります。アギトアリの羽アリは夏に発生します。本州では林縁の駐車場近くで巣が見つかることが多く、羽アリが自動車についてヒッチハイクして分布を広げているのではないかと考えられます。あるいは皆さんの家の近くの林にもアギトアリがいるかもしれませんね。◆



アギトアリの新女王(左)とオス(右)

新女王は働きアリと同じぐらいの大きさ。オスは働きアリや女王とは似ても似つかず、黄色いハチのような姿をしている。



アギトアリの狩り

獲物は大あごで咬みつかれた後も葉にしがみついても必死に抵抗したが、毒針(白い円内)で刺されると動けなくなった。